

第32軍司令部壕保存・公開検討委員会

第3回会合 議事概要

日時：令和3年7月20日(火)

午後2時～午後4時

場所：ているるホール

— 【委員】 —

法 律	玉城 辰彦	ていだ法律事務所	弁護士
経 済／観 光	下地 貴子	(一財)沖縄観光コンベンションビューロー	受入事業部長
沖 縄 戦 研 究	吉 浜 忍	元沖縄国際大学総合文化学部	教授
戦 跡 文 化 財	大城 和喜	元南風原文化センター	館長
応 用 地 質 学	佐々木靖人	国立研究開発法人土木研究所	理事
地 盤 工 学	伊 東 孝	国立大学法人琉球大学工学部	教授
トンネル工学	小 泉 淳	早稲田大学	名誉教授
地 域 振 興	宮良 吉雄	首里自治会長連絡協議会	会長
平 和 教 育	仲泊 和枝	(特非)沖縄平和協力センター	理事長
情 報 技 術	永井 義人	(一財)沖縄ITイノベーション戦略センター	専務理事

— 【事務局】 —

沖縄県子ども生活福祉部 女性力・平和推進課 / 保護・援護課

沖縄県土木建築部 都市公園課

沖縄県教育庁 文化財課、県立学校教育課

那覇市 平和交流・男女参画課

日本工営株式会社

— 【議事概要】 —

- 1 開 会
- 2 第2回会合議事概要確認及び類似施設視察報告
- 3 調査に向けた検討事項について
- 4 地質調査等に係る調査項目について
- 5 議事

(1)意見交換・質疑応答

○法律 玉城委員長

- ・ 沖縄陸軍病院南風原壕群、旧海軍司令部壕を視察させてもらったが、32軍壕と比較して床にほとんど水がなかった。水の処理の仕方について学ぶべきものがあると思う。
- ・ 地質調査等のスケジュールについて、周辺住民への周知はどのように考えているか。また、水について排水するときの環境調査についてどの程度配慮しているのか。

○日本工営株式会社

- ・ 周辺住民への周知についてはスケジュール案の「関係機関調整」で実施することを考えている。
- ・ 地下水の処理については、まずは現地調査をしてどこに何があるのか把握する必要があると考えており、保全対象を確認したうえで壕内の地下水の排除について対応を検討していく。

○沖縄戦研究 吉浜委員

- ・ 地質の基礎調査は重要だと思うので計画通りやってほしい。
- ・ 未調査の部分が知りたい。壕の長さや深さ等、それらの調査を基礎調査と一緒にやってほしい。
- ・ 第1坑道や第4坑道でも、壕口の跡は見つけることができるのではないか。
- ・ 第5砲兵隊の壕や台湾に移動した9師団の壕などの関連戦跡が一体どこにあったのか、32軍壕の実態調査とともに調査してほしい。

○沖縄県子ども生活福祉部

- ・ 未調査部分については、今後実施していく詳細調査において様々な情報が得られると思う。
- ・ まず初めに必要である基礎調査を実施し、それと併せて詳細調査の中で実施できるものがあれば予算の制限があるものの検討していきたい。

○沖縄戦研究 吉浜委員

- ・ 壕口周辺の発掘調査と壕内部の発掘調査を行い、中間報告レベルでもいいから長さ、壕口の確認をしっかりとってほしい。

○戦跡文化財 大城委員

- ・ 私たちの委員としての任期が3月までだと思うが、基礎調査が2月に終了となっている。基礎調査が終われば公開できる場所が選定できるのか。詳細調査まで終わらないと

わからないのか。この委員会との関係はどうなるのか聞きたい。

○沖縄県子ども生活福祉部

- ・ 基礎調査の時点では公開できる場所とできない場所の判断はできない。本委員会の任期は3月までとなっており、詳細調査は次年度以降に予定しているが、任期については今後ご相談させてほしい。

○地域振興 宮良委員

- ・ 我々が知りたいのは中枢部がどうなっているか。そこの調査が進まないと判断できないし、委員会も来年以降どうなるかわからない。

○沖縄戦研究 吉浜委員

- ・ 保存・公開までのスケジュール、ロードマップを示してもらわないと何のための委員会かわからない。次回までに示してほしい。
- ・ 資料収集をやっていると思うが、今回はこのような資料を見つけましたという報告ではなく、この資料からこういうことがわかりましたというような発表をしてほしい。

○沖縄県子ども生活福祉部

- ・ 基本方向で確認したとおり、壕内を公開し平和学習に活用するとともに、文化財指定に向けて検討していく必要があることは委員のご意見の総括として持っている。
- ・ 今年度実施する基礎調査は公開・保存どちらにも必要な調査であるから先行して実施する。
- ・ 詳細調査には様々な項目があり、どの調査から実施していくか議論していただきたい。
- ・ 委員会について、委員の任期は今年度末となっているが、引き続き議論を行うため委員会自体は続いていくと考えている。

○情報技術 永井委員

- ・ 未解明の部分を調べるスケジュールみたいなもの、あるいはエンジニアリング的な調査の目的を示してもらわないと委員として不安になってしまう。
- ・ 過去の例のように予算がとれずに調査が止まるとまた同じような調査が必要となる。そのような事態は避けるためロードマップのようなものは必要。
- ・ 32軍壕の研究をしている人たちに研究費を助成する等、ソフト面での支援があってもいいと思う。

○沖縄県子ども生活福祉部

- ・ 第1坑道については正確な位置がわからないため、レーダー探知等で空間が見つかる

るかどうか、全部崩れて埋まってトンネル自体が見つからない可能性もある。第1坑道といわれるものがどこにあるのか把握してから公開できるか検討してということになると思う。

- ・ 詳細調査が終わってから公開する場所、保存を優先する場所を決め、公開する場所については物理工学的調査と考古学調査を進めることになる。ここにどれくらい時間がかかるかも不明であるため、現時点で日付を入れたロードマップを示すのは難しい。

○地域振興 宮良委員

- ・ 第1坑道については、案内板（首里城公園内）がある場所ではないと地域の人が言っている。観光案内や平和学習のガイドでも第1坑道の入口さえ分からないのかという印象を持たれている。

○応用地質学 佐々木委員

- ・ 安全性に関しては詳細調査をしてみないとわからないので、現時点で保存公開の仕方を正確に決められないが、公開イメージについてアイデアを委員会の中で複数出して、そのためにどういう調査が必要か考えるほうが効率的だと思う。
- ・ 例えば既存の坑道の土砂を除去して補修して、第1坑道までアプローチして公開するとか、既存の坑道を補修するのが難しければ、新しいトンネルを掘って第1坑道にアプローチするとか、一部分だけ坑道を公開するという方法もある。
- ・ 今すぐに公開イメージを描くのは難しいと思うが、県のほうから今年度の委員会が終わるまでに複数の公開イメージを示し、それに応じてこのような詳細調査をしていくと言ってもらえると適切な調査手法を考えることができると思う。
- ・ ロードマップは予算が関係してくる話だが、公開イメージが複数あり、それをみんなで共有した中で、今後どういう調査をやっていくかを議論することはできると思いますので、そういうやり方をしたらいかかと思う。

○地盤工学 伊東委員

- ・ 全体像の把握がわからないのに細かい調査をしましょうという、本当にそれが必要なのかという、そういう戸惑いがあるのではないかと。
- ・ 未発掘区間をしっかりと把握するために、関係機関との調整が必要かもしれないが、電気探査とか地中レーダー探査はどこも傷つけないため、詳細調査の中でもこれを第一優先で首里城が休みのときに実施すれば、中の状態は大体分かるのではないかと。
- ・ 深いところだと表面波探査は難しいかもしれないが、いくつかの探査を組み合わせ、

第1坑道はまだ空洞が残っているのか感触をつかめれば、今後の公開に向けての議論も深まるのではないかと。

- ・ 基礎調査の中で坑道内のレーザー測量があるが、現状と将来にわたっての変状を把握するためにも非常に大事なもので、丁寧に早くやっておいたほうがいい。

○経済／観光 下地委員

- ・ 次年度は復帰50周年ということで、50周年事業として32軍壕だけではなくてその周りにもある壕など、関連遺産群の公開保存の調査事業で予算をつけてもらえるよう要請をしたらどうか。
- ・ アメリカの公文書館にも貴重な資料があると聞いている。県からであれば公開してもらえないのではないかと。

○平和教育 仲泊委員

- ・ 必要だから試掘するのか、試掘して安全だから見せると判断するのか、順番がよくわからない。
- ・ 今すぐに公開ができないということであれば、永井委員がおっしゃったように、アカデミックな部分で研究者の人たちを集めて、資料を収集して編纂をしておいて、公開できるときにそれが有効に利用できるというような方向の事業も併せて展開していくのもいいのではないかと。
- ・ 時間がかかるプロジェクトだと考えており、できるところから進めていくこともいいと思う。

○沖縄戦研究 吉浜委員

- ・ 年度ごとに何をやり、保存公開はいつなのか、先が見える具体性を示してほしい。
- ・ 32軍司令部壕の全容、つまり坑道の長さ、深さ、壕口の確認、これをできれば今年度の基礎調査のほうに入れてやってほしい。
- ・ 次回あるいは今年度中に、今までの調査の平面図ではなく、この委員会が設置された中で新しく作られた図面を提示してもらいたい。そういうように一步一步全容解明を進めてもらいたい。

6 閉会